

特別展「源平合戦と近江」

「源平布引滝」は、人形浄瑠璃を原作とする時代物である。木曾義賢の自刃、木曾義仲の誕生、後白河法皇の救出劇が柱となって展開していく。中でも有名なのが「実盛物語の場」である。

私たち滋賀県民にとってはこの作品の中に「近江八景」が読み込まれていることも親しみを覚える一因となっている。栗東市の手原や湖南市の石部も登場する。

展示では、武士の誉れとして紹介される実盛のもう一つの顔についても紹介した。北広島町に伝わる「実盛送り」である。ここでは実盛が害虫となって村に危害を加えるので、これを送る虫送り行事の主人公となっている。

期間：平成24年4月23日（月）～5月27日（日）

関連事業：

特別展記念講演会「源平布引滝－実盛の生き方」

講師 伊藤りさ氏（国立国会図書館職員・早稲田大学演劇博物館招聘研究員）

開催日 5月19日（土）13時30分～

場所 伝承スタジオ

主な展示資料

源平布引滝絵看板（滋賀県指定文化財）



明治時代 一枚 128×184cm 栗東歴史民俗博物館蔵

県指定文化財。源平布引滝の出演者をひとまとめにした絵看板である。芝居小屋の前に掛けて客の興味を引くように作られた。原資料は栗東市手原を本貫の地とする里内氏の所蔵資料で栗東歴史民俗博物館へ寄贈された。当コレクションは滋賀県指定文化財である。

近江八景宇治川図屏風



江戸時代 六曲一双 紙本着色 67×203cm 大津市歴史博物館蔵

近江八景と宇治川をセットにした小屏風。風景は月並みなものであるが、行き交う旅人が活き活きと描かれている印象的な作品である。

近江八景図



吉村孝敬筆 寛政11年(1799) 六曲一双 紙本淡彩 118.4×245.6cm 野洲市歴史民俗博物館蔵

近江八景

中国の「瀟湘八景」になぞらえ、琵琶湖周辺の風景や名所を描いた屏風。实景に即した写生画としては最初期のものと考えられるが、構図の中に三上山が大きく描かれているなど作者の郷里への思いが強く表れた作品でもある。孝敬は円山応挙の晩年の弟子で長沢蘆雪らとともに「応門十哲」の一人に数え上げられる。なお本作品は、野洲市小篠原の苗村治一氏が古文書とともに野洲市歴史民俗博物館へ寄贈したものの。

実盛仮面



近代 芸北民俗芸能保存伝承館蔵

広島県北広島町で行われる虫送り行事に使用される実盛の頭。当地域の虫送り行事には実盛と呼ばれる人形が登場するが、これは平家の武士である斎藤実盛が加賀篠原の戦いで稲の切り株に馬が足を取られ転倒、討ち取られたため稲に害をなすウンカになって仕返しすることを誓ったという伝承による。虫送り当日には、胴部にこの人形の頭を差し込んで実盛踊りを行ない、最後には実盛人形の化身である藁人形を川へ流す。なお藁人形写真の2面は行事が途絶えたため芸北民俗伝承館へ寄贈されたもの。

展示資料一覧

資料名	資料数	年代	所蔵者
近江八景宇治川図屏風	六曲一双	江戸時代	大津市歴史博物館
広重 近江八景図	八枚一組	江戸時代	大津市歴史博物館
源平布引滝絵看板（滋賀県指定文化財）	一枚	明治時代	栗東歴史民俗博物館
源平布引滝絵番付（滋賀県指定文化財）	一枚	嘉永3年（1850）	栗東歴史民俗博物館
源平布引滝ポスター（滋賀県指定文化財）	一枚	明治22年	栗東歴史民俗博物館
源平布引滝丸本（滋賀県指定文化財）	一冊	寛延2年（1749）	栗東歴史民俗博物館
源平布引滝丸本	二冊	寛延2年（1749）	国立文楽劇場
源平布引滝床本	二冊	近代	国立文楽劇場
近江八景図屏風	六曲一双	寛政11年（1799）	野洲歴史民俗博物館
広重 近江八景図	八枚一組	江戸時代	野洲歴史民俗博物館
歌舞伎装束（義賢）	一着	現代	ミュージアム中仙道
源平布引滝小道具	三点	現代	ミュージアム中仙道
能面三光尉	一面	現代	個人蔵
実盛仮面	二面	近代	芸北民俗芸能伝承館
実盛人形	一体	現代	芸北民俗芸能伝承館